



2023年

## 新年特別号

### 「人の意思」を大切にする

社会福祉法人日本心身障害児協会  
理事長 河 幹夫

一昨年、島田療育センターは還暦を迎えた。その60年の歩みは、創立者である小林提樹先生と島田伊三郎さん、入所し生活して来られた方々、職員と多くの支援者の方々の「祈りと願い」を一つの布に織り上げたものであり、時を刻んだものであった。

この事業が続けてこられたのは、島田療育センターに与えられた使命があり、社会の中での召命、「生活を支えるものとしての医療と福祉」という、障害者福祉の共通の理念が育まれていたからであろう。

近年、「人の意思」に対する懐疑が語られることが少なくない。確かに、現代の哲学は、「人の意思」を過剰に持てはやす嫌いがあり、現代の法学は、「人の意思」

にすべての責任を負わせるようになってきているようにも思う。

しかし一方で、「人の意思」を尊重することによって、人間の在り方や社会の望ましい姿が描き続けて来られたことも、忘れてはいけないのではないだろうか。私たちは、「生活を支えるものとしての医療と福祉」の事業に携わる者として、「人の意思」を丁寧に聞き分け、大切にしたいと思う。



### 瑞宝小綬章受章

社会福祉法人日本心身障害児協会  
島田療育センター  
名誉院長 木実谷 哲史

ずいほうしょうじゆしょう

秋の叙勲で瑞宝小綬章を受章いたしました。都庁で天皇陛下の玉璽の押された大きな賞状とメダルを、小池都知事から直接手渡ししていただきました。この受章に際して推薦下さった河理事長、面倒な手続きをしてくださった森久保事務部長に心から感謝申し上げます。この受賞は島田療育センターの今までの歴史、職員の皆様の働きに対して私が代表して受けたものだと思っております。職員の皆様、ありがとうございます。私が前職の河北総合病院の副院長を辞して島田療育センターに赴任したのが平成7年の夏でした。当時は重症心身障害児者に対する経験も乏しく日々勉強の毎日でした。職員の皆様にいろいろなことを教えていただきながら気が付いたら26年目を迎えました。日本重症心身障害学会に出るたびに島田療育センターの存在の重み、小林先生の偉業を感じて胸が押しつぶされるような心境になりました。しかしこの重い歴史を背中に感じ、職員の皆様の熱い心、利用者に対する温かい思いやりを目のあたりにして今日まで頑張ってきました。今や創立当初の重い障害児のみが対象でなく、発達障害児を含め幅広い障害児のためにサポートしていく時代になりました。外来では自閉症を中心としたASD、注意欠陥多動症候群（ADHD）が数か月待ちという状況、在宅児の支援等私たちに期待される分野は増える一方です。今回の受賞を機にこれからの障害児者の支援を考え、小林先生、島田の原点を振り返り、これまでの道を作ってください先人の思いを胸に抱きながら新しい道を探っていきたいと思います。先日第47回日本重症心身障害学会でも、久しぶりの対面式の学会で参加者も笑顔で語り合う姿を多く目にしました。職員の対応も素晴らしく、多くの参加者からほめていただきました。いい点は更に伸ばし、変えるべき点は積極的に変えながら新しい島田療育センターに向かって進もうではありませんか。

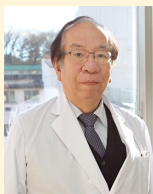


幹部職員による

# 新年 ちょっとひと言



新年特別号ということで、お題を設けて島田療育センターの幹部からひと言いただきました。お題は「新たに始めたいこと」「コロナ禍だったからできたこと」「昨年の目標と結果」から1つを選択して回答します。



木実谷 哲史 名誉院長

## コロナ禍だったからできたこと

夜の食事を伴う会合がなくなりユーチューブを見る時間が多くなりました。新しい知識も増えて、旅行系ユーチューバーから「修行」「修行僧」という言葉を学びました、意味はお分かりですか。



河 幹夫 理事長

## コロナ禍だったからできたこと

「自分の行きたいところへ行く旅」という美しい目標を、今年も夢として、見続けることにしましょう。かつて真冬に行った帯広郊外の然別湖を歩きたいと思えます。



久保田 雅也 院長 兼 支援部長

## コロナ禍だったからできたこと

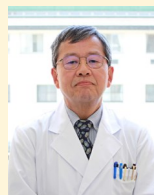
晩酌はこれまでしなかったが、コロナ禍でワイン、ビールを嗜むようになって安くてうまいワインがあることがわかったこと。



有本 潔 副院長 兼 学術研究・研修部長

## 新たに始めたいこと

新年になってから、姪っ子の結婚式があるので、何か余興を、と準備中。ティンホイッスルの練習から遠ざかっているので、これを機に猛練習で曲を仕上げたい。



高山 真一郎 副院長

## 新たに始めたいこと

島田にお世話になり4年近くたちました。これまで同じ道の往復のみでしたが、ちょっと寄り道して、ニュータウンや多摩丘陵の地理を勉強したいと思えます。



小沢 浩 統括副院長

## 昨年の目標と結果

八王子不登校児支援ネットワークプラスパスが立ち上がり、10団体登録、講演会3回できました。来年度は、さらに飛躍します。節電も！



鮎澤 浩一 経営企画室室長

## コロナ禍だったからできたこと

エアロバイクを通販で購入して、毎朝「かる〜」有酸素運動ができています。



野村 健介 医務部長 兼 児童精神科長

## 昨年の目標と結果

週1、2回のジョギングを目標としていましたが、なかなか時間が取れず、月1、2回というのが現実です…ただ、そのぐらいでも良い気分転換にはなるようです。



中村 由紀子 医務部長 兼 小児科長

## コロナ禍だったからできたこと

2022年は映画『こどもかいぎ』の助言者になり、オンラインで北海道から九州まで様々な人と意見交換をしました。WEB会議だからできた経験でした。



落合 三枝子 療育部長

## コロナ禍だったからできたこと

WEBで学会参加し、自宅で時間を気にせず、色々な演題をじっくり見ることが出来ました。



森久保 真由美 事務部長

## コロナ禍だったからできたこと

コロナ前は、平日も休日も自宅で過ごす時間が少なかったですが、自主的行動制限のため、コロナ禍では、休日は自宅で過ごすことが出来ました。大好きな庭仕事も出来ました。



高山 昌子 リハビリテーション部部长

## 昨年の目標と結果

2022年の目標は新しい職場に早く慣れることでした。まだまだですが、日々努力中です。皆がより効率よく、楽しく働ける環境づくりをめざしたいと思います。



岸野 栄一 リハビリテーション部次長

## 新たに始めたいこと

今年から娘とジムに通い始めました。それを続けていきたいです。自分は、コロナの波に流されて、さぼり癖が頭をもたげています。娘に負けないように、感染に注意して行っていきます。

